

① 青虫
② 本気
③ 下校

④ まるい
⑤ めうえ

② ウ
② び
④ 森

③ げんいて
(3 完答)

④ とおりすぎる
⑤ へた

③ ① キ
② エ
③ カ
④ ア
⑤ オ
⑥ ク

④ ① ア

② イ

③ イ

④ A ②

B ①

C ①

配点	
①	各2点×5=10点
②~④	各5点×18=90点
<計>100点	

①の「青」はよこ画の本数をまちがえないように気をつけよう。「虫」はまん中のたて画からの三画を一画ずつていねいに書こう。②の「本」はまん中のよこ画をわすれてはいけない。「気」は四画目のハネや五画目と六画目の「メ」の形をていねいに書こう。③の「校」はつくりの下の「父」の形をきちんと書こう。④の「円」には「まる(い)」という訓読みがある。「丸い」ということばもあるが、「円い」はひらべったいもの、まるさを、「丸い」はふくらんでいるもの、まるさをあらわす。⑤の「目上」は自分よりもえらかったり年上だったりする人のことをあらわす。漢字の練習ではことばの意味をたしかめることも大切である。

2

1 線①のつぎの文でハナさんがひっこしをするにしようとしたわけが書かれている。つれあいのハナミさんがなくなり、むしろこのハナトさんがけっこんしておい外国にいったことでひとりぐらしをすることになり、大きな家がいらなくなったのである。

2 ②は「大きすぎたり、にぎやかすぎたり、さびしすぎたり」するせいで、ひとりぐらしにちょうどいい家が見つからなかった、ということである。④はハナさんがすむことにした家には「町」のほうと「森」のほうとをむいている二つのげんかんがあったことから答えがわかる。

3 ハナさんが「あかいやねの小さな家」のどこを気にいったのかということである。「そこ」のようなこそあどことばがさしめしている内容は、そのあとにつづく文を読んでさしめすものがどういうものかをおさえてからさがしていこう。

4 どういうことをしんぱいしているのかはつぎの行からのところに書いてあるが、いったいそれがどういことなのかを自分のことばでまとめてからならべかえていこう。

5 「上手」の反対は「下手」である。ここでは「じょうず」の反対のことばで「へた」が答えだが、「かみて」と読むと反対のことばは「しもて」となり、「うわて」と読むと反対のことばは「したて」となる。

3

動物が出てくることわざの問題である。
① 馬の耳に念仏：何を言ってもききめないことのとたとえ。
② とらぬたぬきの皮算用：利益が手にはいる前からその使いみちを考えること。

③ さるも木から落ちる：どんな名人でも失敗をするものだ。
④ ねこに小判：価値のわからないものによいものをあたえてもむだだ。
⑤ ぶたに真珠：「ねこに小判」と同じ意味である。ことわざをおぼえるときは同じ意味のものや反対の意味のものもいっしょにおぼえていこう。

⑥ かい犬に手をかまれる：かわいがっていたものにひどい目にあわされる。

4

1 しら「ない」人はい「ない」というのは、「ない」が「ない」ので「ある」とほぼ同じ意味になる。
2 「かける」にはいろんな意味があるのだが、どうして「X」を「かける」というのかはわからない、ということである。
3 前半はバツテンをあらわす「X」じるしの話で、後半はかけ算につかわれる「X」という記号の話である。イのあとに「かけ算のときは」とあるように、ここからかけ算の話になっている。

4 A：「ペケ」は中国語の「だめ」という意味のことばから「ペケ」と言われるようになったかもしれない、という話はあったが、かけ算の「X」が中国でどうなのかは書かれていなかったのでもちがいが。かけ算に「X」をつかったのは「三百五十年ほどまえの、イギリスのオートレッドという人」だったとウの段落に書かれていた。B：エのすぐあとで、「『かける』ということばには：いろいろなみがありますね」と書かれていたので正しい。C：②のすぐあとに、「どうしてかけ算のときに『かける』というのかは、よくわかりません」と書かれていたので正しい。